

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0870300795
法人名	医療法人社団 青洲会
事業所名	グループホーム 寄居
所在地 (電話番号)	茨城県神立町前原443-5 (電話)029-833-2070

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	平成20年7月14日

【情報提供票より】(20年 2月 7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 22人, 非常勤 3人, 常勤換算 23.4人	

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(1月18日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	70 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	神立病院 茶園歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、広大な敷地の中、障害者支援施設や老人保健施設と隣接している。平屋の3ユニットが設置され、そのユニットの中心に屋外の語らい・交流スペースが確保されている。居室は和風、洋風それぞれが設定され、畳部屋の居室には、利用者の昔ながらのなじみある家具が設置され、落ち着きを感じられる部屋作りがなされていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	他の事業所の評価を参照しながら、どのような福祉サービス(日頃のケア)を実践すれば利用者・家族・職員がよりよく生活できるのか、検討を繰り返してきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を行うにあたり、全職員から意見を聴取し、各ユニットごとにリーダーがまとめ、管理者がガイドラインを用いてそれを総括している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の議事録はきちんと整備されている。会議のメンバーも明確に選出されており、定期的(隔月)な実施がみられる。会議で検討される主な議題は、利用者のご家族の意見や職員の意見、行政機関からの様々な意見等々を確認しながら、多角的な議論を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	主に口頭で(直接ないし電話にて)家族等へ利用者の近況報告をケースバイケースで対応している。利用者の小口現金の預かり状況については、個々に小遣い帳を作成、管理し、その都度報告を行っている。今後、アンケートを実施してさまざまな意見を聴取していく予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、地域との交流を展開している状況である。ボランティアの活用などから、地域との交流を広げていくなど前向きな活動も見受けられる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	既存の理念はおおよそ5年前に考案された。これに固執し、利用者の支援だけに没頭することを懸念されている。今後は、地域と一体化して事業運営を進めるための新しい方向性(理念)打ち出さなければならないと考えている。		時代や社会の変化に即応した新しい理念を検討される予定である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の個人記録を職員皆で共有し、それらを活用して、利用者への支援の際の念頭におくべき理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域との交流を展開している状況である。ボランティアの活用などから、地域との交流を広げていくなど前向きな活動も見受けられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行うにあたり、全職員から意見を聴取し、各ユニットごとにリーダーがまとめ、管理者がガイドラインを用いてそれらを総括している。また、他の事業所の評価を参照しながら、どのような福祉サービス(日頃のケア)を実践すれば利用者・家族・職員がよりよく生活できるのか常に検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録はきちんと整備されている。会議のメンバーも明確に選出されており、定期的(隔月)な実施がみられる。会議で検討される主な議題は、利用者のご家族の意見や職員の意見、行政機関からの様々な意見等々を確認しながら、多角的な議論を行っている。		

茨城県 グループホーム寄居

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	土浦市の地域密着型事業のサービス連絡会に参加している。また、フォーマットを定めて、定期的に文書で市に入居状況の連絡を行っている。消防署との定期的な訓練を行うなど、その活動・記録は正確に行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に口頭で(直接ないし電話にて)家族等へ利用者の近況報告をケースバイケースで対応している。利用者の小口現金の預かり状況については、個々に小遣い帳を作成、管理し、その都度報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見箱の設置の活用はない。ただ、意見書の書式は整備されている。また、利用者ないしご家族からの意見があればその都度、真摯に耳を傾け、丁寧な対応を行っている。今後、アンケートを実施してさまざまな意見を聴取していく予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等があれば、その都度、利用者丁寧に説明、挨拶または紹介を行っている。これまでの対応で、特に利用者の方々に心配や不安を抱かせるようなケースはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内には教育委員会が設置され、勉強会を定期的開催している。法人内研修、実践者研修、土浦市主催の各種研修等々に適時職員を参加させている。また、研修参加者は終了後、ユニット会議等において研修報告を行い、学んだ知見を他の職員に伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に、土浦市内の他事業所との交流を図っている。土浦市、つくば市合同の事例検討会等に参加している。他事業所との相互訪問を検討している。また、個々の職員レベルで(研修等の機会を活用して)情報交換等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常時、体験入所を実施している(見学やお茶のみ等)。時にはケアマネジャーを通じて、見学を案内している。実際の利用を検討していただく際には、ホーム内の雰囲気や食事についてつぶさに話し合いの場を設けている。入居希望者がなじみを感じて利用できるよう、さまざまな交流の機会づくりをすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各ユニットごとに若干の差異があるが、畑作業や調理・料理、裁縫などの生活活動場面を通じて、利用者とスタッフの共に支えあう関係づくりを推し進めている。時には人生相談があったり、子育てのアドバイスをお願いしたりと、バラエティ豊かな関わり合いがみられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の外出や食事の希望は積極的に取り入れている。また、利用者の思いや意向を適切に組み入れ、即時対応できるよう、新たな書式を導入した。今後、ご家族からの要望も加味していく予定である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々の利用者のアセスメントは、担当制を導入し、月単位で収集している。それをまとめて、利用者主体のケアが実施できるよう検討している。また、ご家族の考え、方向性を十分に組み入れるプランニングを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(月1回以上)にケースカンファレンスを実施し、その機会において個別に介護計画のモニタリングも実施している。日々の記録との連動性を意識しながら、随時、プランの修正を記入している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の医療機関、居宅介護支援事業所、老人保健施設との連携が図られている。また、保育所と定期的な交流を企画している。神立病院の、24時間体制のバックアップ体制を確保している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は神立病院がメインとなっている。かかりつけ医への受診は、ご家族中心で行ってもらっている。ただし、神立病院の医事課との連携が機能しており、予約確保等の支援を行っている。また、歯科訪問を受け入れしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム独自の看取りの指針が整備されており、すでに看取りの事例がある。看取りのケアが必要となれば、ご家族と相談を密にしながら対応していく。看取りの同意書も整備している。	○	今後は、具体的な看取りの手順書(マニュアル)の整備を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内でサービス接遇の研修を実施しており、その際に、利用者のプライバシーの確保を職員皆で勉強している。日常の写真撮影等において、口頭で本人およびご家族から同意を得るよう努力をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりにあわせた生活の営み方を重視し、ご家族の希望も取り入れながらケアにあたっている。また、その人らしい生活の継続のためのさまざまな課題について、随時相談および検討の機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みメニューを導入して、利用者が楽しんで食事をとれるよう工夫している。利用者ひとりひとりの好みも職員皆で把握している。食事にはBGMを効果的に用いたり、会話を愉しむための配慮をしたり、和やかな雰囲気作りに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて入浴を支援している。希望の時間、希望の頻度を尊重したケアを徹底している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の新聞取り、漬物作り、日曜大工など、利用者ひとりひとりの生活歴をベースにした役割、楽しみごと、気晴らし支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の健康センターで催される演芸芝居の観劇、散歩、ドライブ、ショッピング等、週1以上の頻度を保ちつつ、充実した外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由により、夜間のみ(20時～翌日7時)施錠している。居室の窓の鍵は、その都度(利用者の希望にあわせて)施錠する場合がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、定期的な訓練を実施し、また、災害対策マニュアルを整備している。法人本部(敷地外)に食料品等の備蓄を行っている。	○	緊急時、食料品等の備蓄をどのように取り扱うのか、具体的な対応手順について検討し、定めておくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとりひとりにあわせて、栄養摂取や水分摂取状況をチェック表で記録している。記録状況をもとに、必要な支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには見やすい大きさのカレンダー等が掲げられた。いくつかのソファが配置され、気軽に休めるようになっており、利用者は毛布を手に、それぞれが思うように過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ひとりひとりの個性を活かす個室づくりを念頭に、その人にあわせたレイアウト等を実施している。		